

祝 平成29年12月21日 川口市の人口が60万人を突破しました。

はじめに

奥ノ木市長は、平成26年に市長に就任され、いよいよ今任期中の最後を飾る12月市議会定例会を迎えています。この間、公約を掲げた様々な施策にしっかりと取り組まれ、特に最大の公約であった中核市への移行は、来年4月1日に決定し、保育所の増設など、子育て・保育環境の充実そして市産品フェア開催をはじめとする市内経済活性化策など多くの実績を積み上げてこられましたことに、深い敬意を表する次第であります。奥ノ木市長は、「引き続き市長として、川口市民の最大多数の最大幸福を目指し、その責務に全力で応える決意である」と出馬について力強く表明されております。我が党として一丸となり、全力で支援して参ります。奥ノ木市政の今までそして、今後の取り組みについてお聞かせください。

奥ノ木信夫市長答弁

私は、市長就任以来「公平公正であること」「弱いところに光をあてる」という政治信条の下、みんなでつくる川口の元気をスローガンに、選ばれるまちを目指し、市政運営に全力で取り組んで参りました。おかげさまで、最大の公約であった中核市への移行については、来年4月1日の移行が正式に決定したところであります。さらに、市長就任時に掲げた30項目の政策宣言についても、全ての項目が達成または、着実に進行しているところであります。3大プロジェクトも、来年、新庁舎1期棟の建設工事が着工する予定であり、川口市めぐりの森・イイナパーク川口の開設、川口市立高等学校の開校と全て順調に進んでおり、責任をもって、成し遂げる所存であります。一方、今後の取り組みにつきましては、引き続き、子育て・保育環境の充実、防災・防犯体制の充実強化、市内経済の活性化策など様々な施策に取り組み、歳入が確保されて歳出が可能となるとの基本姿勢のもと、新たに「健全な財政運営のまちづくり」及び「各地域の課題への取り組み」を加え、市政運営に努めて参りたいと存じます。今後の市政運営にあたりましても、スピード感を持って、「安全・安心なまち」「住みやすく便利なまち」「魅力あるまち」にして、更なる「選ばれるまち」を目指して参ります。

川口市立高等学校について

アメリカ フィンドレー高校への長期留学生派遣の準備について自らの将来や社会の未来を切り拓く人材の育成を目標に掲げている川口市立高等学校に、新たに長期留学制度が創設されることは大変意義のあることであります。来年度4月の川口市立高等学校開校を前に、教育局職員と高校の職員がアメリカ オハイオ州・フィンドレー市を視察したと伺っております。そこで、以下質問します。フィンドレー市と協定を結ぶに至った経緯について、お答えください。

フィンドレー市と協定を結ぶに至った経緯について (奥ノ木信夫市長答弁)

これまでの経緯につきましては、埼玉県とオハイオ州が平成2年より、姉妹友好県州提携の関係にあつたこと、加えて昨年夏にフィンドレー大学の准教授が埼玉県庁国際課並びに本市を訪問し、私の新校の留学に対する思いを聞き、そこで留学先の候補としてフィンドレー市を紹介していただいたことが発端であります。また、教育分野での連携を進めるため、両市の関係構築の先駆けとして、本市教育長がフィンドレー市を訪問したところであります。教育長からは、フィンドレー市は市長、教育長を中心に、教育に対する理解と情熱にあふれた市であり、さらに治安等の安全面、留学生への支援体制もしっかりしていることなどから、留学先としてふさわしい環境である、という報告を受けております。このような経緯から、来年には私自らフィンドレー市に赴き、更なる交流の推進と教育に関する協定を結ぶことにより、本市から世界で活躍するグローバル人材の育成に取り組む考えです。

平成29年12月議会定例会のトップで「中核市への移行について」・「川口市立高等学校について」そして「川口駅前におけるまちづくりについて」等を質問いたしました、その概要をご報告します。

川口駅前におけるまちづくりについて

市内に存在する全面借地方式で建設されたUR川口栄町住宅及びUR川口幸町住宅については、本市とURとの協議の結果、期間満了により借地契約が終了し、建物等を除却したうえで、2団地同時に更地として返還されることで合意したと伺っております。そこで川口幸町住宅跡地の利活用について川口幸町住宅と隣接する幸町小学校は、耐震化に係る改築事業により、本年4月から新たな校舎において、学校活動が開始されました。今後は、引き続き校庭の整備が行われますが、校庭が狭く、また周囲を住宅に囲まれており、公道への出入りのスペースも限られるなど、児童・生徒の学校活動の支障や、地域住民の避難先として、災害時における防災拠点としての機能上の不安があります。そこで、地元である幸栄地区といたしましては、これを契機とし、校庭の拡張と防災拠点としての機能向上を図っていただきたく、過日、市長に要望書を提出したことであります。また、当該地区は、並木元町公園に雨水貯留施設が整備され、産業道路周辺の浸水被害は改善されましたが、市役所前通り周辺住民の中には、まだまだ浸水被害を心配している方も多く、更なる対策が必要であると考えます。このことから、校庭の拡張とあわせ、浸水対策の観点からも、当該敷地を活用していただきたく、次の2点について質問いたします。

※幸町小学校校庭の拡張について ※浸水対策について

川口栄町住宅については、栄町公民館が併設されておりましたが、幸町小学校の新築に併せ、栄町公民館は、幸町小学校の敷地内に幸栄公民館として生まれ変わりました。川口栄町住宅跡地は、川口駅からも近く、利便性に優れた貴重な市有地であります。この土地の利活用については、地元市民の方も非常に関心が高く、市としても有効に活用すべきと考えますがいかがでしょうか。

※UR栄町住宅跡地の利活用については、施設を建設する場合には、市民や団体の各種発表や美術品展示などが、安価で利用できる多目的ホールや会議室を設置していただき、多くの人が集まれる施設となるよう、また、地元町会や商店街ともよく話し合いをしていただくようお願いいたします。

幸町小学校校庭の拡張について (教育長答弁)

UR川口幸町住宅跡地につきましては、UR都市機構が施設を除却した後、市有地の借用期間が満了する平成32年9月までに市に返還される予定でございます。当該跡地は、幸町小学校に隣接する都市部の貴重な市有地でありますことから、教育環境の向上を図るべく幸町小学校の校庭の拡張用地として活用して参りたいと存じます。これにより、新たに市役所前通りに面する校門を整備することができ、通学時の安全確保とあわせ、防災拠点としての機能強化が図られるものと考えております。幸栄地区の浸水対策としましては、産業道路沿いの並木元町雨水調整池の他に市役所前通り周辺にも雨水貯留施設の設置が必要でございます。UR川口幸町住宅跡地は、幸栄地区内の貴重な公有地でありますことから、この地下を有効に活用し、雨水貯留施設を設置する計画を進めて参りたいと存じます。

UR川口栄町住宅跡地の利活用について (市長答弁)

UR川口栄町住宅跡地につきましては、UR川口幸町住宅と同様に、市有地の借用期間が満了する平成32年9月までに施設を除却した後に、市に返還される予定であります。当該跡地につきましては、議員ご指摘のとおり、川口駅に近い貴重な市の財産でありますことから、更なる選ばれるまちの実現に向け、地域の特性を活かした賑わいの創出を念頭に、地元の方のご意見も伺いながら、60万市民を抱える中核市川口にふさわしい利活用を検討して参る所存であります。

八間通りの対面通行化について

平成20年に「八間通り」の産業道路から中央道路までの区間の一方通行規制が解除されましたが、以前として、その先のオートレース通りまでは、一方通行規制が行なわれており、末広方面から川口駅方面へ向かう車両は、迂回(うかい)せざるを得ない状況が続いております。このため、地域からは川口駅周辺の車両通行の利便性や迂回路となってしまう生活道路の安全を確保するためにも、中央道路からオートレース通りまでの区間の一方通行規制を解除し、対面通行化を望む声を多くいただいております。今後の見通しについてお聞かせ下さい。

八間通りの対面交通化について (市民生活部長答弁)

八間通りの中央道路交差点からオートレース通り交差点までの区間の一方通行解除につきましては、これまで関係部署、所轄の警察署及び埼玉県警察を交えて協議を行って参りました。その結果、当該区間につきましては、利便性の向上及び道路交通の円滑化を図るため、一方通行規制が解除される見通しです。規制解除の時期は、平成30年3月中旬の見込みでございます。